

平成 29 年 6 月 14 日現在

機関番号：34416

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26780163

研究課題名(和文) 民主化の経済的効果に関する研究

研究課題名(英文) The Economic Effects of Democratization

研究代表者

岡田 啓介 (OKADA, Keisuke)

関西大学・経済学部・准教授

研究者番号：70633064

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：経済発展における制度的要因の重要性は広く知られている。本研究課題では、政治体制と契約履行制度の役割に着目し、主に次の3つの研究テーマに取り組んだ。(1)異なる政治体制のもとで、民族的多様性が公共財供給(健康水準)にどのような影響を及ぼすのかについて理論的・実証的に検証した。(2)民主化が政府の行動にどのような影響を及ぼすのかについて実証的観点から研究した。(3)契約履行制度がいかなる経済環境の下で出現するのかについて検討した。

研究成果の概要(英文)：It is well-known that institutional quality has an important role in economic development. We have focused on the roles of political regimes and contract enforcement institutions and have mainly investigated the following three research topics. First, we have theoretically and empirically studied how ethnic diversity affects public good provision (health condition) in different political regimes. Second, we have empirically researched the effects of democratization on governments' behaviors. Finally, we have investigated under what economic conditions contract enforcement institutions would emerge.

研究分野：経済学

キーワード：制度 経済発展 民主主義 民主化

## 1. 研究開始当初の背景

経済発展における制度的要因の重要性は多くの経済学者の指摘するところである。慣習や法、政治体制などといった制度的要因は、市場の役割を補完するものとして機能しており、制度の質の改善が円滑な経済活動、ひいては経済発展につながると考えられている。一方で、制度の質は多岐にわたっており、その役割について検討するべき課題が依然として多い。本研究課題では、制度の中でも政治体制と契約履行制度に着目し、それらと経済発展の間にどのような関係が存在するのかについて研究を進めた。

## 2. 研究の目的

上記の研究状況を背景として、本研究課題では、具体的に次の3つの研究テーマに取り組んだ。(1)異なる政治体制の下で、民族的多様性が公共財供給(健康水準)にどのような影響を及ぼすのかについて理論的・実証的に検証した。(2)民主化が政府の行動にどのような影響を及ぼすのかについて実証的観点から研究した。(3)契約履行を担保する制度がいかなる経済環境の下で出現するのかについて検討した。

### (1) 民族的多様性と政治体制が公共財供給(健康水準)に与える影響

民族的多様性と政治体制がそれぞれ公共財供給にどのような影響を及ぼすのかについては、多くの既存研究が存在する。公共財供給は、民族的多様性が高い場合、民主主義の程度が低い場合に減少することが知られている。一方で、民族的多様性と政治体制を同時に考慮した研究は少ない。そこで、本研究テーマでは、民族的多様性が公共財供給に与える影響が、政治体制ごとに異なる可能性を検討する。

### (2) 民主化が政府支出に与える影響

民主化とは非民主主義体制から民主主義体制への制度変化を意味する。ある国が民主化するとその国の政府はより再分配的な政策を実行することが理論的に示唆されている。一方で、現実には政府は必ずしもそのような行動をとらないという主張も存在する。そこで、本研究テーマでは、政府支出の総計だけではなく、健康・教育・軍事など政府支出の各項目について、民主化がどのような影響を及ぼすのかを実証的観点から検証している。先行研究の多くは政府支出の総計だけに注目しているが、本研究テーマでは政府支出の総計に加えて、健康・教育・軍事などの細目も検討することで、民主化の政府支出への効果をより詳細に検討している点に貢献がある。

### (3) 契約履行制度の出現

制度の質の改善が経済発展をもたらすという主張は広く受け入れられているが、制度の質の中でも所有権の保護が経済発展に極めて重要な役割を担っていることが知られている。一方で、所有権制度を含む契約履行制度がどのような経済環境の下で確立してきたのかについても検討する必要がある。そこで、本研究テーマでは、契約履行制度がいかなる条件の下で出現するのかを検討した。

## 3. 研究の方法

### (1) 民族的多様性と政治体制が公共財供給(健康水準)に与える影響

本研究テーマでは、民族的多様性が公共財供給に与える影響が政治体制ごとに異なる可能性を理論的・実証的観点から検証している。理論分析では、市民候補者モデル(Citizen-candidate model)において、民主制・独裁制という異なる政治体制を考慮した。個人間に政策の選好の異質性が存在するとき、民族的多様性が政治家・政策の選択にどのような影響を及ぼすのかを考察している。実証分析では、1960 - 2010年の157ヶ国のパネルデータを使用し、公共財の質として健康指標(乳児・乳幼児死亡率、平均寿命)を考えている。計量経済学的分析を用いて、理論分析から導かれた結果の妥当性を検証した。

### (2) 民主化が政府支出に与える影響

本研究テーマでは1972 - 2010年の125ヶ国のパネルデータを使用して、民主化が政府の行動にどのような影響を及ぼすのかについて検証している。差の差モデル(difference-in-differences model)を用い、民主化から政府支出への影響の因果関係をより厳密に推定している。また、政府支出の変化が民主化に影響を及ぼす可能性があり、このような逆因果性に起因する問題に対処するため、操作変数推定を行った。操作変数には、1970年代から発生した「民主化の第三の波」の議論に基づき、同一地域内で民主化した国の数(厳密には平均値)を利用している。

### (3) 契約履行制度の出現

本研究テーマでは、契約履行を担保する制度がどのような経済環境の下で出現するのかについて考察している。理論分析では、土地所有者と農民の間のゲーム理論的状況を想定し、契約履行制度が内生的に決定されるモデルを提案した。また、制度の質が改善するにつれて、国内の不平等度がどのように変化

するのかについても検討している。最後に、理論分析から得られた結果の妥当性について、1985 - 2009 年の 115 ケ国のデータを用いて検証した。

#### 4. 研究成果

##### (1) 民族的多様性と政治体制が公共財供給 (健康水準) に与える影響

理論分析では、支配的な民族が存在する場合の民主制、支配的な民族が存在しない場合の民主制、独裁制、の 3 つの状況を想定した。ここでは、既存研究と同様に、民族的多様性と公共財供給の間に負の関係が存在する。一方で、ここでは、民族的多様性と公共財供給の関係が非単調となる。具体的には、民族的多様性が小さい場合は公共財供給が多く、その後、民族的多様性が上昇するにつれて公共財供給は減少するが、民族的多様性がある閾値を超えると公共財供給は増加するという関係である。実証分析では、理論分析から導かれた結果が成立することを明らかにした。研究成果は国際的学術誌 *Research in Economics* に掲載された。

##### (2) 民主化が政府支出に与える影響

実証分析の結果から、民主化は政府支出の総計には影響を及ぼさない一方で、健康支出の増加、軍事支出の減少をもたらすことが明らかとなった。また、軍事支出は民主化直後から減少するが、健康支出の増加は民主化して数年経た後に観察される。軍事・健康支出以外の支出についても検討したが、民主化が与える影響は限定的であった。研究成果は国際的学術誌 *Journal of Economic Behavior and Organization* に近刊予定である。

##### (3) 契約履行制度の出現

理論分析から、生産性の高い経済では、契約履行を担保する制度が内生的に出現し、それにより土地所有者と農民間の非効率な土地配分が是正されるような協力関係が促進されることが明らかとなった。一方で、生産性の低い経済では、このような制度、協力関係は発生しない。生産性が中程度の場合、複数均衡が生じ、高い均衡では制度が出現するが、低い均衡では出現しない。このような制度の質と生産性の関係は実証結果とも整合的である (図 1 参照)。

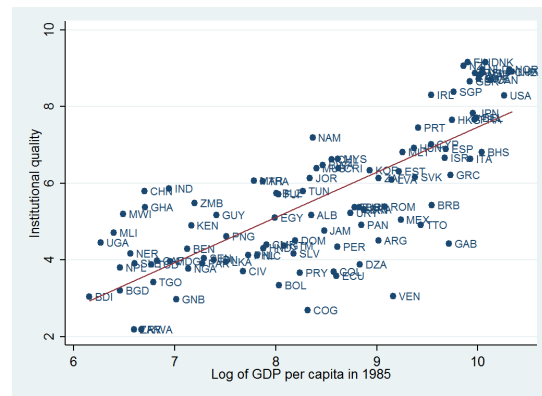


図 1: 制度の質と生産性

また、理論分析では、制度の確立により不平等度が低下することも明らかとなった。この点も実証結果と整合的である (図 2 参照)。

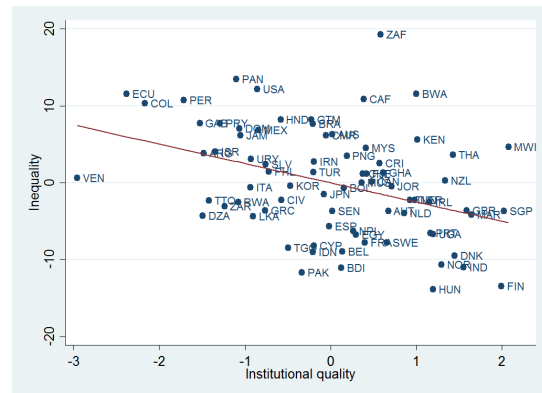


図 2: 不平等度と制度の質

研究成果は国際的学術誌 *Pacific Economic Review* に近刊予定である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 10 件)

Kotera, Go, Keisuke Okada (2017) How Does Democratization Affect the Composition of Government Expenditure? *Journal of Economic Behavior and Organization*, 掲載許可済み (査読有)  
DOI: 10.1016/j.jebo.2017.03.004

Okada, Keisuke, Sovannroen Samreth (2017) Corruption and Natural Resource Rents: Evidence from Quantile Regressions. *Applied Economics Letters*, 掲載許可済み (査読有)  
DOI: 10.1080/13504851.2017.1287849

Kunieda, Takuma, Keisuke Okada, Akihisa Shibata (2017) A Simple Model of Contract Enforcement Institutions. Pacific Economic Review, 掲載許可済み (査読有)  
DOI: 10.1111/1468-0106.12090

Kunieda, Takuma, Keisuke Okada, Akihisa Shibata (2016) Corruption, Financial Development and Economic Growth: Theory and Evidence from an Instrumental Variable Approach With Human Genetic Diversity. Economic Notes, 45 (3), 353-392. (査読有)  
DOI: 10.1111/ecno.12061

Kunieda, Takuma, Keisuke Okada, Akihisa Shibata (2016) Collateral Constraints and the Current Account: Theory and Evidence. Economic Inquiry 54 (1), 633-651. (査読有)  
DOI: 10.1111/ecin.12251

Kotera, Go, Nobuhiro Mizuno, Keisuke Okada, Sovannroeun Samreth (2015) Ethnic Diversity, Democracy, and Health: Theory and Evidence. Research in Economics 69 (3), 353-376. (査読有)  
DOI: 10.1016/j.rie.2015.02.002

Kunieda, Takuma, Keisuke Okada, Akihisa Shibata (2014) Corruption, Capital Account Liberalization, and Economic Growth: Theory and Evidence. International Economics 139, 80-108. (査読有)  
DOI: 10.1016/j.inteco.2014.03.001

Iwata, Hiroki, Keisuke Okada (2014) Greenhouse Gas Emissions and the Role of the Kyoto Protocol. Environmental Economics and Policy Studies 16 (4), 325-342. (査読有)  
DOI: 10.1007/s10018-012-0047-1

Okada, Keisuke, Sovannroeun Samreth (2014) How Does Corruption Influence the Effect of Foreign Direct Investment on Economic Growth? Global Economic Review, 43 (3), 207-220. (査読有)  
DOI: 10.1080/1226508X.2014.930671

Kunieda, Takuma, Keisuke Okada, Akihisa Shibata (2014) Finance and Inequality: How Does Globalization Change Their Relationship? Macroeconomic Dynamics 18 (5), 1091-1128. (査読有)

DOI: 10.1017/S1365100512000843

[学会発表](計 2 件)

岡田啓介、How Does Democratization Affect the Composition of Government Expenditure? 京都大学経済研究所研究会、2016年3月15日、京都大学(京都)

岡田啓介、Corruption, Capital Account Liberalization, and Economic Growth: Theory and Evidence. 関西大学経済学会・第30回夏期研究大会、2014年7月16日、関西大学(大阪)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

岡田 啓介 (OKADA, Keisuke)  
関西大学・経済学部・准教授  
研究者番号: 70633064

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

なし

### (4) 研究協力者

なし